

行田アート散歩「とりあえず いろいろ見てみよう」

2012年5月19日



ライとゼリーフライで軽めの昼食。そのままバスで行田の外郭をぐるっとまわり、見沼用水路や田園風景を眺めました。それから市内へ入り、バスを降りて徒歩でぐるっと歩きました。足袋と暮らしの博物館や牧禎舎などの足袋関連のスポットを見学したり、かつて小川だった名残の細い路地を歩いたり、現在の風景の中に残っている歴史の跡をたどったりしました。また、行田市民大学(教育委員会・ひとつくり支援課)の活動を牽引している永島健雄さんには清善寺を案内していただき、商店街で呉服屋を営む曾原和子さんには行田の歴史を語っていただきました。行田で作家活動をしている岩井綾女さんにはその作品を観せていただき、高校生たちには部活でやっている演劇を観せてもらいました。

行 田アート散歩)はその時期にしては暑すぎるくらいの陽気のもと、SMFメンバーとその友人や知人などを中心に合わせて20名ほどが参加して開催されました。

今回のアート散歩は、今後のSMFの活動の新しい一手となることを念頭において計画されました。すなわち、埼玉県北部地域における活動の展開です。これまでなかなかこの地域のアート活動の軸となるような人や場所と関係を深めることができず、SMFの活動においても「県北」は舞台になることができずにいました。僕はSMFメンバーの中で数少ないこの地域の生活者として、その状況を変えるために何か一手を打ちたいと思い、中村誠さんと相談して、とりあえずまずはSMFメンバーに行田に来てもらい、アートの感性でいろいろ見てもらおう、そうすればそこから次の展開が生まれるかもしれないという考えにいたりました。

そうして開催された「行田アート散歩」はまず、はじめにバスできたま古墳公園へ行って前玉神社を訪ねてから、持参したフ



ると人口減少や商店街の衰退など実質的な課題にあおられて、つい焦ってしまいがちですが、こういうときこそ改めて冷静に客観的な目でまちを眺め、鍵となる要素をきちんと認識していく必要があると感じました。

「行田アート散歩」から数ヶ月後、今度はほとんどの鴻巣でアート散歩が開催されました。鴻巣にもまたいろいろとおもしろいスポットがあり、県北地域の可能性を改めて感じました。県北地域ではまだアートがはっきりとその存在を主張できていないからこそ、アートがその機能を発揮する機会がたくさん秘められているのではないかと私は考えています。SMFをはじめとして、さまざまなアート活動が行田や鴻巣、その他の県北地域でもっと盛んになるよう今後も努力していきます。

野本翔平 (SMF協力委員)



鴻巣アート散歩「画家と詩人・水と街道をたどる」

2012年10月20日



秋 には、春の「行田アート散歩」につづいて、JR鴻巣駅から吹上駅まで武蔵野の風景をバスでめぐり「鴻巣アート散歩」を実施しました。

中心テーマとして、おだやかな風土に育ちながらも強い個性をもち、独自の達成をした2人の詩人と画家を設定しました。

ひとりには鴻巣出身の詩人・秋谷豊(1922-2008)です。その墓がある光徳寺では、秋谷豊詩鳩館の館長の秋谷千春さんから話をうかがいました。また、画家・須田剋太(1906-1990)については、生地の旧・吹上町にある公民館で開催中の須田剋太展を鑑賞し、須田剋太の評伝『画狂剋太曼陀羅』(邑心文庫)の著者・加藤勉さんから話をうかがいました。

このほかに鴻巣市産業観光館ひなの里

では、国の重要無形民俗文化財「赤物」などの展示を観賞しました。また、渡辺綱が創建したと伝えられる宝持寺では、渡辺綱を描いた歌川国芳の浮世絵を立体木工で再現した鈴木龍泉氏の作品を前にして、家紋にオリオン星座がつかわれていることなどを杉並区立科学館の茨木孝雄さんから説明をお聴きしました。

鴻巣市域から外れるということで「行田アート散歩」にはコースに組みこめなかったものづくり大学にも行き、キャンパス内に復元されたル・コルビュジェのカップ・マルタン(の休暇小屋を、学生の制作指導にあたった八代克彦教授の説明を受けながら鑑賞しました。

このあたりには、埼玉と東京の都市用水に使われている武蔵水路が流れています。利根川の水を荒川に導く取水地点の利根

大堰は上を道路が走り、その先の水路沿いにも並行して道があるので、多くの人になじみのある風景になっています。ところが、水路の最後にあたる荒川への合流地点では、流れはあらあらしい音をたてて注ぎこみ、周囲の穏やかな景色のなかで際立っていて、参加者は驚かされていました。河川管理の関係者くらいしか訪れる人のないところですが、ふつうには目に入らないところに思いを至らせること、異質なものに気づき発見すること、見る者に驚きを与えて気分を活性化すること—といった意味で、この場所はアートそのものとはいわないまでも、アートのいいのではないかと思います。

秋の好天に恵まれ、いい散歩になりました。(参加者：28名)

渡辺恭伸 (SMF運営委員)

